美作国創生公募提案事業　事業成果報告書

１　事　業　名：中高生と大人が交流する居場所と活動拠点づくり

２　実施団体：特定非営利活動法人らんたん

３　担　当　課：地域政策部地域づくり推進課

４　事業概要

目的

中高生の活動拠点を地域の中につくることで、地域との関わりをつくるとともに中高生の自己実現や社会参加の機会を創出していく。そこに地域の大人が関わることで、人と人との結びつきから地域への愛着を深め、地域に関わり続けたいと思えるような未来の担い手を育てていく。

事業内容

対象：町内在住の中学生約90名、高校生約110名を中心とした
　　　JR津山線沿線を利用等して活動拠点に通える中高生

時間：水曜日　14：30～19：30
　　　土曜日　12：30～19：30
　　　※スタッフが必ず1～2名以上常駐

場所：旧灰原商店（JR弓削駅前の空き商店）

内容：中高生が立ち寄りやすい居場所と活動拠点づくり
　　①常駐スタッフと中高生との関係性をつくる
　　②中高生の自己実現につながりそうな活動支援
　　③定期的に中高生向け企画を実施することで巻き込む人を増やす

５　実施内容

① 常駐スタッフと中高生の関係性づくり

季節行事やゲーム大会等を通して、常駐スタッフと中高生との関係性をつくっていった。一緒に過ごしたり、会話したりする中で、中高生の「やってみたい」を引き出していった。

② 中高生の自己実現につながりそうな活動支援

中高生の「やってみたい」ことや興味関心を引き出しながら、実際にやってみるという行動へ向けての活動支援を行う。これまでに中学生が未就学児へ教えるビーズ作りワークショップやLINEスタンプ作り、卒業生へのサプライズプレゼント企画等を実施した。いきなり地域との接続を持たせるのではなく、関係性を作りながら中高生の身近な「やってみたい」から挑戦し、1人でできることから周りの人を巻き込むものへ、そして地域へとつながる方向性を考えていくように意識して支援していった。

　また、デザインやデジタルへの関心が高い中高生を中心にデジタル部ができている。活動拠点のWebサイト作成を考えており、Webサイトのデザインやロゴづくりのためにデザイナー兼イラストレーターの方によるデザイン講座、外観写真や室内の様子等の写真素材を集めるためにカメラマンによるカメラ講座を実施した。

③ 定期的に中高生向け企画を実施することで巻き込む人を増やす

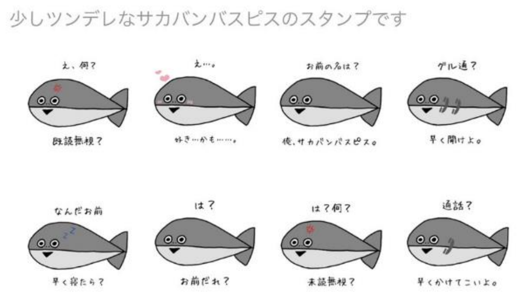
　オープン前にプレイベント実施やオープニングイベントでのビンゴ大会、季節行事イベントや誰でも参加しやすいボードゲーム大会等を実施していった。また、駄菓子の販売やポッキーの日にポッキー販売等を実施し、中高生にとって買い求めやすく、立ち寄ってその場で過ごすきっかけを作った。

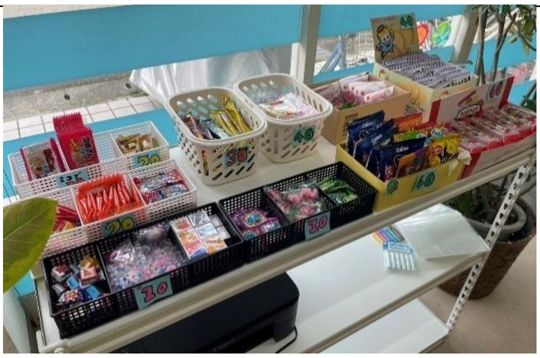
　利用してくれる中高生との関係性ができてからは、中高生と相談しながら行事イベントを計画したり、興味関心に合う大人をお招きしたり、中高生のニーズに合わせて実施した。

＜今年度実施した主なイベント等＞

8月20日（日）本棚作りワークショップ
9月23日（祝）本棚作り及びオープンに向けた準備
10月7日（土）オープニングイベント
10月14日（土）マンカラ大会
10月21日（土）オセロ大会／キーホルダー作りワークショップ
10月28日（土）ハロウィンイベント
11月11日（土）ポッキー・プリッツ特別販売日
12月23日（土）クリスマスイベント
2月3日（土）ガラスペイント
3月13日（水）デザイン講座
3月16日（土）カメラ講座
3月20日（祝）卒業パーティー
3月30日（土）キーホルダー作りワークショップ

<u>＜活動写真＞</u>

本棚ワークショップ 中高生3人、大学生3人、スタッフ2人	オープンに向けた準備 中高生2人、大学生2人、スタッフ1人
オープニングイベント 中高生6人、大学生2人、スタッフ1人	マンカラ大会 中高生2人、スタッフ1人
オセロ大会 中高生3人、大学生1人、スタッフ1人	キーホルダー作りワークショップ 中2利用者が未就学児3人に教える
	
ハロウィンイベント 中高生1人、大学生1人、スタッフ1人	元SEの方に教えてもらいながら作成した LINEスタンプ

<table>
<tr><td></td><td> </td></tr>
<tr><td>駄菓子販売
中高生のリクエストもあり</td><td>駄菓子の準備の様子
中高生利用者で値つけ作業</td></tr>
<tr><td> </td><td> </td></tr>
<tr><td>ポッキープリッツ販売日
中高生からのリクエストあり</td><td>ポッキープリッツ販売日の様子
中高生6人、大学生1人</td></tr>
<tr><td> </td><td> </td></tr>
<tr><td>クリスマスイベント
中高生7人、大学生1人、スタッフ1人</td><td>ガラスペイント
絵を描くの好きな中高生3人</td></tr>
<tr><td> </td><td> </td></tr>
<tr><td>卒業パーティーに向けての準備の様子
卒業生へのサプライズプレゼント作り</td><td>デジタル部の活動の様子
中高生約4人、スタッフ1人</td></tr>
</table>

デザイン講座 中高生4人、スタッフ2人	カメラ講座 中高生3人、スタッフ1人
卒業パーティー 中高生6人、大学生1人、スタッフ2人	キーホルダー作りワークショップ 中高生3人、スタッフ2人

６　事業実施による成果、効果、今後の課題

（1）　成果、効果

利用人数

10月のオープンから活動拠点に延べ255人、1日平均約5人の中高生が足を運んでくれている。

区分	2023 10月	2023 11月	2023 12月	2024 1月	2024 2月	2024 3月	今年度合計	今年度平均
中高生	34	42	42	40	49	48	255	5.2
大人	25	11	5	16	12	29	98	2
学生ボランティア	4	6	9	5	8	8	40	0.8
開催回数	7	9	8	8	8	9	49	8.1

中高生の変化

常連メンバーには、不登校生徒が多く、初めは引っ込み思案で人前で話すことが苦手だった子が、自分から意見を言ったり、目の前の物事に自ら取り組んだりする姿が見えるようになる。保護者から「当初は家に引きこもりがちだった子どもが活動拠点に通うようになって友達ができたことで学校へも少しずつ通うことができるようになったのが大きな変化」という声をもらっている。

中高生のやりたいことへの伴走支援と地域へつながる取り組み兆し

初めはこちらから季節行事やイベント実施を促していたが、中高生からもクリスマス会や卒業パーティーをしたいという声が出るようになった。中高生の興味関心からデザイナーによるデザイン講座やプロカメラマンによるカメラ講座を実施した。ビーズでのモノづくりが好きな子は、実際にマルシェ出店している方に教えてもらい、今後は自分たちがマルシェ等に出店する話も出ている。4月に町内で実施するマルシェにキーホルダー作りのワークショップ出店をすることになっており、活動拠点を飛び出して地域と関わっていく社会参加の機会もできつつある。講座の実施やマルシェの打ち合わせ、そして保護者も活動拠点に出入りして我が子ではない中高生にも声をかけてくれており、大人の利用人数が延べ98人となっている。

（2）　今後の課題

コミュニティが確立されすぎつつある

常連メンバーのコミュニティができあがっており、試しに立ち寄った中高生が馴染みづらい雰囲気になっている。新規利用者の獲得が弱い部分がある。居場所的な機能とイベント実施や「やってみたい」の伴走支援をする活動拠点となる機能とを曜日や時間帯を変えて運営すること検討している。

日常的に中高生に関わりをもつ地域の大人の創出不足

地域の大人で日常的に関わりをもつ目標人数を5人創出としていたが、今年度に関しては中高生との関係性作りに特化したため、日常的に中高生と関わる地域の大人を2人しか増やすことが出来なかった。スタッフ自身が意図的に巻き込んでいかないといけない。

第三者から見た活動拠点の価値や効果の示し方

中高生の「やってみたい」を実施し、地域へつなげていくには時間と段階的な経験が必要となる。各個人に合わせての伴走支援が必要となり、定量的な効果を測定するのが難しい。中高生の自己実現を叶えながら地域への接続を図る事例を増やしていき、周りの子への影響や波及を継続していくことで図っていきたい。

7　県民局と連携した効果及び課題

効果

県民局と連携したことで、久米南町内だけでなく津山市内の高校へも活動拠点の周知をすることができた。また行政機関との連携ということで、ポスター掲示のお願いも相手に不信感等を抱かれることなく受け入れてもらいやすかった。そして今回助成金を活用することで、中高生が過ごしやすい場を整えていくためのスタートアップをきることができたのが非常に大きい。

課題

中高生のニーズを拾いながら実際に活動までにもっていくのに時間がかかってしまい、年度末間近の春休みの動きを予測して動くことが難しかったため、前もって手続きや相談を細めにすることができなかった。子どもに合わせた教育事業での連携活用の難しさ。